

現状と対策を再確認

2月15日、都市整備課の業務について、さまざまな分野で、意見交換、また現場確認を行いました。

都市計画とは

まちの健全な発展と秩序ある整備を図るため、都市計画の基本的な方針、土地利用、都市施設の整備、市街地開発事業に関し、計画を定めています。

まちづくりの根幹となる基盤整備を計画的に進めるためには、町の現状や課題、住民意向を踏まえ、町全体および地域ごとの将来ある

べき姿を示す基本的な方針「都市計画マスタープラン」が重要となります。概ね20年を用途に計画を見直します。

このことについては、刻々と町を取り巻く状況の変化に応じ、より良いまちにしていいため、人口や土地・建物利用の状況などを調査する都市計画基礎調査が令和元年度に実施され、その調査結果を基に、令和3年度から令和5年度にかけ策定する予定で進められています。

県道(筑紫野古賀線)の進捗状況

4車線への拡幅が順次進められていますが、用地買収等、たくさん課題を解決しながら進んでいくため、完了するまでは、まだまだ時間がかかるようです。県道のため、町から県へ、随時要望が行われています。



都市整備課との意見交換

交通渋滞の緩和対策

人口増加や都市化、近隣町からの流入状況が進んでいることで、県道筑紫野古賀線を含み、町内各所で渋滞が見られます。

交差点の改良だけでは、スムーズな通行確保はできないため、併せて、信号機の設置や改良などいろいろな対策が検討されており、警察への要望・協議が進められています。

町民がより便利で、快適な生活ができるよう期待されます。



須恵中央交差点

橋梁点検について

町内には74橋の橋梁が存在して



修繕状況の確認

います。

建設後、相当の年数が経過しているため、一部では老朽化が進んでいます。

現在、建設後50年を経過するものは26橋、20年後の2037年には、66橋まで増加します。

そのため、耐久性を維持し、今後必要となる事業費を縮減するため、平成29年度に、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、定期的な点検や、計画的な修繕が随時実施されています。

日頃は、あまり目につきませんが、町民の重要なインフラとして、保全事業が実施されています。

委員会レポート | 文教厚生委員会

ネット予約運用開始予定

2月4日、須恵町立図書館の運営状況などについて、現地調査を行いました。

沿革

須恵町立図書館は、今から46年前の昭和49年12月に住民センター「あおば会館」に図書室が設置され、平成7年6月に1階部分を改装し、須恵町立図書館として開館しています。平成12年には、図書館コンピュータシステムを導入、イベントとして「おはなし会」や「工作教室」、また各講座の開催、講師の方を招いての講演会を行い、現在に至っています。

サービス

貸出要件は、須恵町民、町内に通勤通学する人、福岡都市圏17市町に居住する人などで、広域に渡り利用できます。図書、雑誌は1人10冊まで(期間は2週間)貸し出し、団体貸出は、町内の学校、幼稚園、保育園および各種団体に、原則100冊

まで(期間は2カ月)行っています。他町からは、取り扱っていない本の貸出要望も多く、幅広く本を充実させています。

コロナ対応としては、書籍消毒器を導入しています。また、読書手帳やMY本棚、ネット予約の運用を開始する予定です。

利用状況

令和元年度の統計では、須恵町民の登録率は39%で、令和2年の年間貸出冊数は、新型コロナウイルス感染症予防対策で臨時休館になったにもかかわらず、88,458冊となっています。これは、須恵町民1人当たり3.1冊が貸し出された事になります。

また、過去5年間の統計を見ても、毎年103,000冊を超えている本が貸し出されています。

問題点

現在のスペースとしては、4万冊が最適とされていますが、現状では10万を超える冊数を所有しています。本来、図書館として建てられた建物ではないため、閲覧できるスペースや収納するスペースが狭い状況です。

また、2階の体育館使用時は、音や振動が激しく、利用者にとって良い環境とは言えません。さらに、築46年が経過しており、建物の老朽化も問題となっています。



収納スペースの状況を確認

開館状況などはこちらから確認してください



須恵町ホームページ

事務調査を終えて

コロナ禍の中で、令和2年度はイベントの中止や臨時休館など、町民に対するサービスが抑制される状況となりました。そのような中でも、サービスの向上を図るため、さまざまな取り組みが行われています。ぜひ、多くの人に図書館を利用していただきたいと思えます。

また、多くの課題・問題点も残されているため、新たな図書館の開館が望まれるところです。

